

令和6年 第1回定例会 一般質問通告表

NO. 1

通告順	議席番号	通告者	項目	件名	質問の要旨	答弁者
1	2	望月 清貴	1 社会福祉	介護保険第1号保険料について	<p>令和6年度から3年間の第9期保険料の改正案が示された。 第8期保険料は、全国、全道平均との比較では低額であり、第9期もこれらを大きく上回ることはないと推察するが、引き続き保険給付費の増加と、負担する65歳以上人口の減少により、増額改定となっている。 物価高騰に追いつかない年金の改定や後期高齢者医療保険料の増加など厳しい状況の中、高額所得者の負担率を大きく増加させることで低所得者の負担増を抑制しているが、高齢者の現状からは制度の限界とも考える。 介護保険は市町村が保険者であり、住民が相互に支えあう制度である。 第10期にも続く議論と、町民の理解が必要と考え、町長に考え方を伺う。</p> <p>1 保険者としては、制度上やむを得ない結果とも考えられるが、増額改定になっていることについて、まずもって町民に対して町長の所見を伺う。</p> <p>2 増額改定案を前にして、少しでも減額できないかとの立場に立ち、保険料算定の考え方について確認をする。 ① 令和5年度末時点の介護給付費準備基金の最終残高見込みと活用。 ② 全国的なことと思うが、保険料算定の際、保険給付に加えて地域支援事業を推進する人件費や、地域の体制整備に必要な費用も算入されてきた。重要・必須な事業費だが、保険料を財源とすることには違和感があり、市町村の判断で、これを算入しないことは不可能なのか。 ③ 介護保険制度費用のうち、第1号保険料の負担率は23%であり、これからの継続には限界があると考え、町長や町村会の見解は。</p> <p>3 介護が必要になる要因は、衰弱や関節疾患、骨折のほか、認知症、脳卒中など、多くは生活習慣も要因である疾患であり、新年度予算案にも、健康診査など保健予防事業や地域医療、生きがい・社会参加など福祉事業、スポーツや社会教育など、介護保険料の軽減につながる事業は多い。 介護保険は、その町のシステムを住民自治によりつくり上げ、その結果として保険料の軽減や、基金残高を増加させることもあり得る制度だ。 老後はすべての人が通る道でもある。 次の3年後の保険料改定期に向けて、超高齢社会の中、関係事業の推進に意を配し、全町挙げた意識づくりを進めてはどうか、また、そのことが町民それぞれの幸せにもつながると考えるがいかがか。</p>	町長

通告順	議席番号	通告者	項目	件名	質問の要旨	答弁者
				<p>医師の働き方改革と美深町の地域医療について</p>	<p>遅れながらも、長時間労働で私たちを支えてきた建設や物流の業界、そして、医師の働き方改革が始まる。</p> <p>先日、医師の働き方改革とその後の方向性を主題とする名寄市立総合病院主催の市民公開講座を拝聴させていただいた。</p> <p>(医科では)町内唯一の病院として最も身近で私たちを支えている美深厚生病院とともに、名寄市立総合病院は、広大な地域を掌握する道北の地方センター病院として小児科、産婦人科をはじめとする日常の専門医療、そして乳幼児健診、さらに救命救急などにおいても大変お世話になっており、現状と今後の取り組みについて、強い関心を持って聞かせていただいた。</p> <p>高齢化の進行と医療ニーズの多様化など、人口減少地域においても医師の仕事量は減らないこと、また、人材確保や効率的医療が強く求められ、病院機能を分担し、将来へ持続可能な地域医療を確保することが必要な時代にあつて、引き続きこれまで同様、またはそれ以上の取り組みを目指しておられると知らされた。</p> <p>本町の地域医療を考えた時に、これからの地域医療の方向性について理解を深め、守っていくことがますます必要と考え、次のとおり町長に伺う。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1 上川北部区域地域医療構想調整会議をはじめ、町長は圏域の会議等に出席されていると考えるが、近年の地域医療の動向や、医師の働き方改革などが始まる状況について、所見を伺う。 2 本町の地域医療の状況を考えた時に、この機に改めて町民の理解と協力につながる分かりやすい周知・啓発活動に取り組み、地域医療を皆で理解し、守っていくことが必要であり、そして、町民がそれぞれの健康を保持していくことが大切と考えるがいかがか。 (医療法第6条の2において、それぞれの努力義務が規定されている。) 3 救急医療については、美深厚生病院が救急告示病院・二次救急医療機関として救急にあたっているとともに、名寄市立総合病院は、道北第3次医療圏の中核病院でもあり、救命救急センターとして、重篤救急患者の高度救命救急を担い、災害拠点病院にもなっている。 過去にも問われることが多かった事項と思うが、救急医療の機能・役割の分担状況、救急搬送の基本的なルールについて、町民の理解を深めるため、改めて伺う。 	町長

通告順	議席番号	通告者	項目	件名	質問の要旨	答弁者
2	1	木下 広悠	1 行政	美深町の情報発信に対するの振り返り及び今後の展望	<p>1 町長が公約に掲げていた SNS の活用の一環でフェイスブックとインスタグラムの公式アカウントを開設されて、運用してみた率直な感想と見えた課題は。</p> <p>2 2023年12月15日から旭川空港にLCCであるジェットスターが成田空港間で運行を始めている。今後上川管内に都市圏からの観光客が大幅に増加する事が予想されるが、この流れに乗って宣伝活動により一層力を入れていく意思はあるか。 また、今後どの様に美深町の魅力を発信して交流人口を増やしていくか具体的な方策を伺う。</p>	町長
				移住促進に繋がる制度や取り組みに関する現状と改善策	<p>1 美深町は移住就業支援金の利用実績が無いと認識している。支給条件が厳しい事も要因だと思うが、2024年3月現在、町内に移住支援金対象法人が少なすぎる事も一つの要因と考える。 北海道が管理するマッチングサイトに無料で広告が出せたり、雇用に関わる費用を一部補助してくれたりとメリットが大きくデメリットはほぼほぼ無いにも関わらず未だに町内では登録が2社という状況となっている。 先日担当部署からPR不足は認めるという発言を受けたが、今後町としてどの様なアプローチで周知していくか、移住支援対象法人の登録を促す広報の一環として所見を伺う。</p> <p>2 オンライン移住相談を実施している自治体が増加している。対話式で移住候補先の情報を取り入れたい方々も相当数いるので、ZOOM等のアプリを利用して美深町でも取り入れてみる価値はあるのでは。 財源の観点からもほぼ費用は掛らず、比較的实施しやすく、少なからず移住促進に繋がる案だと考えるが所見を伺う。</p>	町長